

【取組内容】 チャットツールによる校務のDX

課題：学校における電話連絡の課題

頻繁な電話連絡:体調確認、早退連絡、面談日程調整など、様々な目的で保護者へ頻繁に電話連絡を行っている。

電話連絡のタイミング:授業の合間に電話をかけることが多く、電話後も職員室に留まらないため、情報共有が難しい状況がある。

電話連絡者の不在:事務職員や養護教諭も連絡のために電話をかけることがある。

折り返し時の混乱: 保護者が電話に出られなかった場合、着信履歴を見て折り返しの電話があるが、誰が何の目的で電話をかけたのかが不明確で、保護者に不信感を与える可能性がある。

情報共有の欠如:誰が、誰に、何の目的で電話をかけたのか、折り返しがあった場合の対応について、職員間で共有する仕組みがない。

解決策：校務DXによる電話連絡の効率化と情報共有

チャットの活用: 職員間の情報共有に利用していたチャットツールに、「架電連絡」という専用のチャットスペースを新設した。

架電情報の共有:電話をかけた際、相手が不在だった場合、以下の情報をチャットスペースに記録・共有。

誰が：電話をかけた教職員の名前

誰に：電話をかけた保護者の名前

目的：電話をかけた目的（例：欠席連絡、早退連絡、面談日程調整など）

折り返し時の対応：折り返しがあった場合の対応方法（例：担当教員に連絡、事務室に連絡など）

効果：校務DXによる課題解決と業務効率化

折り返し電話への迅速な対応: 架電情報が共有されることで、折り返しの電話に誰が対応すべきか、どのように対応すべきかが明確になり、迅速な対応が可能になった。

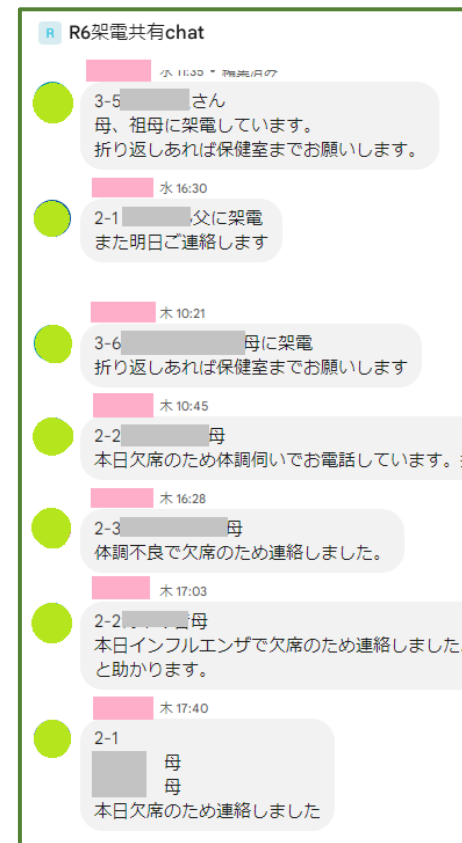
保護者への安心感の提供: 誰が、何の目的で電話をかけたのかが明確になったことで、保護者の不信感を解消し、安心感を提供できるようになった。

生徒の安全確保: 特に早退で迎えが必要な場合、保護者への連絡がスムーズになり、生徒を迅速に保護者に引き渡せるようになった。

教職員間の連携強化: 架電情報を共有することで、教職員間の連携が強化され、組織としての対応力が向上した。不在であったとき、折り返しがあるまで待たなければならないと考える必要が「自分だけでしなければならない」から「同僚にお願いできる」という気持ちの余裕ができた。

まとめ

校務DXの一環としてチャットツールを活用し、電話連絡に関する情報共有を徹底することで、学校における電話連絡の課題を解決し、業務効率化、保護者との信頼関係構築、生徒の安全確保に繋げることができた。



チャットによる教職員間での架電状況 の共有